

2023年3月11日発行

ベビー雑貨の商品開発 (シリコンベビービブ)

柳 邊 匡 史

相模女子大学紀要 VOL.86 (2022年度)

ベビー雑貨の商品開発 (シリコンベビービブ)

柳 邊 匡 史

Product Development for Baby Goods (Silicon baby's bib)

Masafumi YANABE

There are many baby goods available in the market, but they are full of “cute” products with colorful and pop designs just because they are for babies. This is not to denigrate “cute” products, as everyone has their own tastes and preferences, but we also thought that there is a demand for simple, well-designed baby goods that can harmonize with various spaces and environments. Based on this idea, we researched and made prototypes, and developed a “silicon baby's bib” that reflects the modern lifestyle.

Key Words : Product Design, Baby Goods



シリコンベビービブ (正面)



シリコンベビービブ (背面)

1 : はじめに

ここで取り上げる商品は、有限会社サラサドットコム (以下「サラサ」と称する) よりベビー雑貨の商品開発依頼を受けて始まったものである。このプロジェクトでは市場で数多く展開されている「可愛らしさ」を全面に押し出した、カラフルでポップな

デザインのベビー雑貨とは対照的な「様々な空間や環境で使用しても生活感を感じさせない、シンプルでデザイン性の高いベビー雑貨」をテーマに、第一弾として「ウェットティッシュホルダー」(2016年発売)、第二弾として「ウェットティッシュバッグ S/M」(2020年発売) (図1) を筆者の企画・デザインで先行発売した。これら二つの商品は潜在的な市場

のニーズを的確に捉えることに成功し、発売以降順調に売り上げを伸ばしている。また「同じデザインテイストでの商品ラインナップを充実して欲しい」との声が多数あったため、サラサから再度依頼を受け、2021年に第三弾となる新商品開発を進めることとなった。



図1. 上/「ウェットティッシュホルダー」2016年発売
下/「ウェットティッシュバッグS/M」2020年発売

2：開発経緯

●アイテム選定

新商品として次に何のアイテムを開発するか決めるにあたり、以下の経緯を経て検討した。コレクション開発において、ひとつひとつの商品としての価値を追求する一方、商品同士の横の繋がりをしっかりと構築することが重要である。それにより相互作用が生まれ、単品としても、またコレクションとしても、より高い価値を生み出すことが可能になる。そこで、先行発売されたウェットティッシュホルダーやウェットティッシュバッグがどのような状況下で使用されるかを検証し、それらと関連性の強いアイテムを今回の開発候補アイテムとした。

- ベビーマグ
- ベビーボトル
- ベビーカトラリー
- ベビープレート
- ベビービブ

先行発売されたウェットティッシュ関連の商品は、主に赤ちゃんのお尻拭きの時や、食事のシーンでの使用が一番多くなると想定される。特に食事のシーンに関連するベビー雑貨は数多くあり、その中でも「ベビービブ」だけが、それ以外の候補アイテムと包括的に組み合わせて使用することが想定出来るので、今後の開発の流れを鑑みても、まずは「ベビービブ」を最優先に開発すべきだという結論に至った(図2)。



図2. 「シリコンベビービブ」2021年発売

●需要調査

ベビー雑貨のコレクションを開発するにあたり、「出産祝い」としてのギフト需要も見込んでいたので、どのようなアイテムがお祝いギフトとしてよく選ばれているのかを調査した。生活関連ウェブメディアの「素敵なギフト」編集部が、5年以内に出産祝いをもたらした人・あげた人のそれぞれ100名(合計200名)を対象に行ったインターネット調査^{*1}によると、「出産祝いでうれしかった物(男女総合)」のベスト3は、1位：ベビー服(18%)、2位：ベビービブ(10.9%)、3位：オムツケーキ(8.6%)となり、「贈った出産祝い(男女総合)」のベスト3は、1位：ベビー服(20.9%)、2位：ベビービブ(12.7%)、3位：カタログギフト(9.1%)であった。この調査結果から、ベビービブには一定の需要があることを読み取ることができた。

もうひとつ着目すべき調査項目があり「出産祝いで困った物(男女総合)」1位：ベビー服(24.8%)となっており、その主な理由として「もらった時にはサイズアウトしていた」「自分の好みに合わず、1回も着せなかった」など、ベビー服は必需品なのでもらって嬉しい反面、サイズが合わなかったり、趣味が合わないだけで、一転して「困った貰い物」になってしまう恐れを秘めている。ベビービブにおい

ても、それらの問題は起こり得ることなので、ここから読み取れることとして、赤ちゃんの成長時期にしっかりと対応できる「サイズの汎用性」と、様々なライフスタイルに馴染みやすい「シンプルで飽きのこない意匠」にすることで、あげる人・もらう人、双方にとって嬉しい商品になる可能性があると考えた。

3：デザイン

市場で販売されているベビーピブを調査し、どのような改善点があり、またどのようにして差別化を図り独自のコンセプトで商品開発を進められることができるかを検討した。

●意匠

まずどのような傾向のものが市場に出回っているのかを調査した。意匠面に関しては「花」「水玉」「星」「動物」など、いかにも赤ちゃんを連想させる可愛らしいモチーフのものが多く「丸襟」「蝶ネクタイ」「レース」など、機能性やメンテナンス性を無視した装飾をあしらった商品も数多く展開されていた。また色味に関しては、土や植物など、地球にもともとある自然物をイメージした、カーキ、ベージュ、ブラウン系などの「アースカラー」のものが主流であった。これらのリサーチから、ベビーピブ市場もベビー服同様「赤ちゃん＝可愛らしい」という印象をデザインに落とし込んだ装飾過多な意匠のものが大半を占めていることが分かった。このような装飾性が強いデザインのもの、一定のターゲットには深く刺さる反面、それ以外のターゲットには全く刺さらないものになってしまう。そこで私たちは極力装飾を排除した「道具」としての機能性を追求したうえでの造形美と、幅広いライフスタイルに受け入れられ易い、シンプルで飽きのこない佇まいになるようデザイン設計を進めた(図3)。

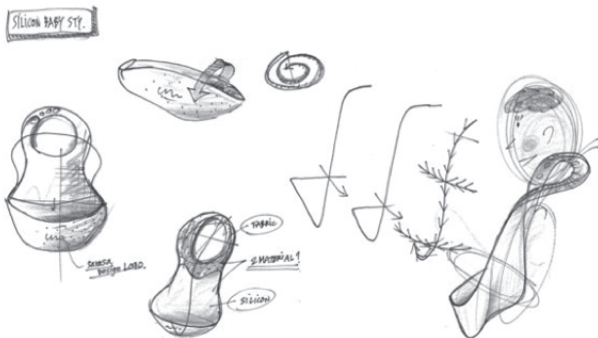


図3. アイデアスケッチの一部

●素材

次に素材面についての調査を行なった。ベビーピブの主な使用目的としては「食べこぼしによる衣服の汚れを防ぐ」ことであるため、素材の選定は非常に重要である。市場には様々な素材でできたピブが販売されており「布」「ナイロン」「シリコン」などが主だった素材として使用されている。そこでそれぞれの素材における耐汚性・耐水性・耐久性・携帯性・メンテナンス性・付け心地・価格などを、素材別にメリット・デメリットで分類した。

[布製]

メリット：肌触りが良い・軽い・コンパクトになる・洗濯機で洗える・安価

デメリット：汚れが落ちにくい・水分に弱い・乾きづらい

[ナイロン製]

メリット：乾きやすい・軽い・コンパクトになる・安価

デメリット：水分に弱い・肌触りが悪い・耐久性がない

[シリコン製]

メリット：汚れに強い・水分に強い・しなやか・耐久性がある・食洗機で洗える(図4)

デメリット：重い・コンパクトにならない



図4. しなやかさと耐久性を備えたシリコン樹脂

布製やナイロン製のピブは、薄くて携帯性に優れ安価ではあるが、薄いが故に形状を立体的に保持することができず、食べこぼしをキャッチするポケットが機能しないことや、素材としての耐水性・耐汚性・耐久性が低いため、汁物に弱く、食べ物による

色移りもしてしまうことから、消耗品としての意味合いが強い。一方シリコン製のビブは、樹脂成形品なので、立体的な形状を保持できることから、しっかりと食べこぼしをキャッチするためのポケットを付けることができる。

また素材として耐水性・耐汚性に優れていることから、色移りの強い食品や、汁物をこぼしても染み込まないので、外出先でもウェットティッシュなどで汚れをさっと拭き取ることができ、きれいな状態でバッグなどに収納することが可能だ。さらに耐久性・耐火性があるため、食洗機を使って何度でも高温洗浄することが出来るので、常にスタイを清潔に保つことが可能だ(図5)。価格は布製やナイロン製と比べると少し割高にはなるが、一度購入すればロングライフに使用することができる。強いてデメリットを挙げるとすれば、他の二つの素材と比べて、多少重量が重くなることと、コンパクトに折り畳んで携行できないという点だ。しかし、裏を返せばそれら二つのデメリットをしっかりと解決することで、独自性のあるシリコンビブが開発できるのではないかと考えた。また素材を選ぶにあたり、先行販売された2つのアイテムとの組み合わせも考慮した。コレクションとしてのデザインのトーン&マナーは守りつつ、様々な素材を使ったアイテムで商品群を構成することで“品揃えの奥行き”を演出することができる。ウェットティッシュホルダーは主にABS樹脂を使用しているので「硬い」印象があり、ウェットティッシュバッグは主にナイロンファブリックを使用しているので「柔らかい」印象である。それら二つに、シリコン樹脂の「硬さ」と「柔らかさ」の中間的な質感を持った素材を加えることは、先に述べた“品揃えの奥行き”を演出する上でも、最適な素材であると考えた。



図5. シリコン製なので水にも強く、食洗機による高温洗浄が可能。スタイを清潔に保つことができる

●使用時における問題点と対策

ビブのリサーチを進めていく中で「赤ちゃんが嫌がって付けてくれない」というレビューを数多く見かけた。そもそもどんなに見た目が美しい商品を開発したところで、使用する当人である赤ちゃんが付けることを嫌がってしまうとは本末転倒である。そこで「なぜビブを付けることを嫌がるのか？」その原因として考えうる4つの仮説を立て、それらの改善案をデザインに反映させた。3Dレンダリングを作成し、海外の協力工場にて3Dプリンターを使った数多くの試作を行なった(図6)。

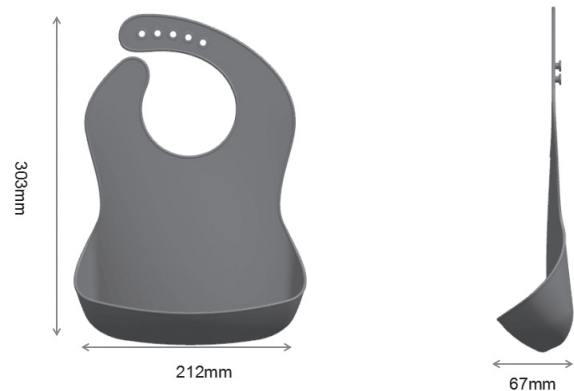


図6. 3Dレンダリング

仮説①：首回りの違和感

首回りの擦れや重さによる違和感をなくすためには成長に合わせたサイズ調節が必要だと考え、シリコンの素材特性を活かしたスナップ式の4段階の調節機能を付けた。また首回りや腕などが触れるすべてのエッジを柔らかなR形状で仕上げることで、直接肌が触れても角張った触感にならないよう配慮した(図7)。



図7. スナップ式4段階調整機能イメージ

仮説②：ビブが重い

先にも述べた通り、シリコン素材のデメリットのひとつは「重量」である。その商品重量に加え、ポケットに溜まった食べこぼしの重みも加わっていくので、耐久性と品質が保たれるギリギリのところまでシリコンの厚みを軽量化していった。

仮説③：異物感があって邪魔

異物感を軽減するためには、体へのフィット感が必要だと考え、ボディーラインに沿うよう3次曲線を駆使し、汚れから衣服を守るギリギリのところまで無駄な面を削ぎ落としながら輪郭のスタイリングを進めていった。この削ぎ落としは商品の軽量化にも大きく貢献した。

仮説④：触感が気持ち良くない

シリコン素材の特性のひとつとして、微妙な硬度と質感のコントロールができるところにある。それらの特性を活かし、赤ちゃんが商品に触れた時にすこしでも安心した気持ちになってもらえるように「もち肌」のような、きめ細かく滑らかな触感を再現した。

●携行性

市場における既存品での素材比較の項目で述べた通り、シリコン製のビブは布製やナイロン製に比べて、コンパクトに折りたたむことができないという点から、携行性において劣るという調査結果であった。しかしその欠点を解決することが新しいシリコンビブを発売する上で必要不可欠だと考えた。そこで、食べこぼしをキャッチするためのポケットに「エプロン収納ポケット」としての、もうひとつの役割を持たせるということで解決に導くことができた（図8）。この発想はアウトドアシーンにおいて、フード付きのパーカーやジャケットなどをコンパクトに収納する方法からヒントを得ている。ボディーと両袖を襟幅ぐらいに畳み、クルクルと丸めてフードの中にしまい込むという方法だ。またこの方法を採用することで、汚れが付着する正面を内側に丸め込むことができるので、他への汚れ移りも心配しなくていいというメリットもある。

この機能をつけたことで、「サッとウェットティッシュで汚れを落とし、クルクルと丸めてベビーバックにしまう」という、一連の流れるような所作が目に見えデザインに仕上げることができた。



図8. 収納イメージ

●ケアマーク

紙の取扱説明書をパッケージの中に封入する代わりに、ピクトグラムによる「ケアマーク」を本体背面にレイアウトした。これにより商品の取り扱い方法に迷った時でも、すぐその答えに辿り着けるといった利便性を考慮した。また、エンボス加工された繊細なグラフィックが、のっぺりとした背面の印象をグッと引き締める効果も担っている（図9）。



図9. ケアマーク

●カラー展開

カラー展開はサラサのブランドカラーでもあり、さまざまな環境に馴染みやすい“Black / Charcoal gray / Warm gray”の3色を採用した。先行発売されているウェットティッシュホルダーも同様の3色展開をしているので、組み合わせることで、食卓におけるトータルコーディネートができる。



図10. カラー展開（上からBlack, Charcoal gray, Warm gray）

●パッケージ

通常、透明のPE（ポリエチレン）パッケージを使用する場合は、商品全体を見せるのが一般的だが、この商品の特徴である「丸めて収納できる」という機能をひと目で消費者に伝えるために、あえて丸めた状態で包装した。またそうすることで、陳列棚で見た時に「これは何だろう？」と消費者の興味を引く仕掛けとしての効果も狙った。更には、ギフトとして受け取った人も同様なリアクションが起きることも想定した（図11）。



図11. PEパッケージ

●雑誌掲載

株式会社ベネッセコーポレーションが発行する、育児に関する情報誌「ひよこクラブ9月号」に掲載された。「出産育児ジャンルNo.1」の購読者がいるこの雑誌に掲載されたことで、商品の認知度を大きく広げることができた。

03 sarasa designからシンプルで機能的なシリコン製スタイが登場

「b2c シリコンスタイ ベビービブ」（全3色 / 1650円）は、シンプルで機能的なベビービブ。シリコン製スタイの多くは、平面的な形状でポケットの開きが不十分であることに着目。三次元的な形状にすることでしっかりとポケットが開くデザインになっています。カラーは、ホワイト・ブラック・チャコールグレーのシンプルな3色展開。©sarasa design <https://www.sarasa-design.shop/>



図12. 雑誌掲載：ひよこクラブ9月号（2021/8/12発売）

3：評価と今後の展開

2021年5月の発売以降、順調に売り上げを伸ばし、相乗効果もあってか先行発売した2アイテムも引張られる形で今まで以上に売り上げを伸ばしている。ユーザーレビューでは「柄も入っていないくて、色がシンプルで、こんなのを探していました。」「先輩ママさんからのお勧めで購入しましたが、子供はこぼしますので受け口が付いていてありがたい。シリコン樹脂製なので簡単に洗えるし拭き取ればすぐに使用が出来ます。特に外出先で重宝するんですよ。」など概ね狙い通りの結果となっている。

今後はベビーコレクションの更なる拡大のために、カトラリー、プレート、マグなど、食に関連するアイテムを順次開発予定。

* 1 素敵なギフト編集部. “本当に喜ばれる人気の出産祝い41選と絶対にはずせないマナー”に関する実態調査”. nice gift. 2022-11-28. <https://nice-gift.jp/1356>